

### ① 桜之町西1丁大道(紀州街道)

明治初期に建てられた、玄関部分と主屋部分が独立した表屋造(おもてやづくり)の建築様式の町家。建物の外壁面が、道路よりも少し奥まって設けられており、軒が深い表構えとなっている。建物の右側には塀が設けられ、その奥に前栽(前庭)が設けられている。町家の特徴である「格子」「駒寄(こまよせ)」が設けられ、屋根が「本瓦葺」となっているほか、建物の二階の左端には「袖壁」が設けられている。



### ② 北旅籠町西1丁中浜筋

②-1

「つし(厨子)二階」の町家。

町家の特徴である「虫籠窓(むしこまど)」「格子」「駒寄(こまよせ)」が設けられ、屋根が「本瓦葺」となっている。道路に面して一部が門構えとなっており、格子戸をくぐると前栽(前庭)が設けられている。



②-2

大正後期の近代和風建築。

高塀が設けられ、家屋は前栽(前庭)をはさんだ奥に建てられている。塀の前には、町家の特徴である「駒寄(こまよせ)」が設けられている。



### ③ 北半町西～北旅籠町西1丁

通りの南側には、昭和初期頃に多く建てられた様式の「総二階(高二階)」の町家の長屋が並んでいる。

現在は、どの町家も一階部分に全面格子ではなく、腰壁が設けられ、窓にはすりガラスに格子が取り付けられている。



通りの北側には、持家と思われる比較的規模の大きな町家が並び、多くが二階の階高の低い「つし(厨子)二階」となっている。

「虫籠窓(むしこまど)」が残る町家も見られる一方、看板建築と呼ばれる、トタンやタイル、モルタルなどを用いて外観が改変された町家も見られる。



### ④ 桜之町西3丁

江戸から明治期に建築された「つし(厨子)二階」の町家。町家の特徴である「虫籠窓(むしこまど)」「格子」「駒寄(こまよせ)」が設けられ、屋根が「本瓦葺」となっている。



### ⑤ 錦之町西1丁

大正から昭和初期に建てられた、「総二階(高二階)」建ての町家。

銅板貼りの二階の壁面や、軒裏の「箱軒(はこのき)」がよく残っている。



### ⑥ 九間町西1丁

昭和初期頃に多く建てられた様式の町家。

「総二階(高二階)」で、一階部分に御影石が貼られた腰壁が設けられていて、窓にはすりガラスが用いられ、格子が取り付けられている。

また、二階の窓枠や、「箱軒(はこのき)」の銅板貼りがよく残っているほか、建物の両端に、「卯建(うだつ)」が設けられている。



### 「つし(厨子)二階」

主に江戸から明治にかけて建てられた古い様式で、中二階(ちゅうにかい)と呼ばれることもある。二階の天井が低く、「虫籠窓(むしこまど)」があるのが特徴で、主に屋根裏や物置き部屋として利用されていた。



### 「総二階(高二階)」

つし(厨子)二階の町家と比べて、二階の天井が高くなり、二階が居住用として使われている。時代の流れで、漆喰が塗り込められた虫籠窓ではなく、ガラスの窓に変化している様子が見受けられる。



### 「虫籠窓(むしこまど)」

その形状が虫籠(むしかご)に似ていることから名付けられたとも言われている。漆喰で塗り込められているものが多く、その枠形状も四角のものもあれば、角が丸まっている木瓜形(もっこうがた)のものもある。



### 「格子」

棧の框(かまち)と縦横に組んだ組子(くみこ)で構成され、組子の幅の広い・狭いなど、多くのデザインがある。建物内部への採光と通風を確保しつつ、外部からの進入と視界を制限できる効果がある。



### 「駒寄(こまよせ)」「矢来(やらい)」

町家に多く用いられている「格子」は、正面から顔を近づければ中が覗けてしまうため、これを避けるための足止めとして設けられている。



### 「卯建(うだつ)」「袖壁」

本来、隣家からの類焼を防ぐ目的でつくられるものだが、中には、装飾的な意味合いが強いものもあり、瓦をのせたデザインの卯建(うだつ)も見られる。



### 「箱軒(はこのき)」

2階の軒下を箱段状にし、防火のために銅板で覆ったもの。



### 「本瓦葺(左)」

長方形で横断面が弧状になっている平瓦を葺き、その合わせ目の上に丸瓦を被せて葺いたもの。

### 「棧瓦葺(右)」

横断面が「へ」の字型をしている棧瓦を並べ、隙間をなくすことで丸瓦を省略したもの。本瓦葺より安価で、屋根も軽量化できる。江戸時代前期に発明された。



### 「煙出し」

屋根の上の小さな屋根は、カマドの煙を外へ出すためのもので、通常カマドの真上に設けられる。

